

ただいま冬眠中

趣味の欄に“スキー”と書いていた時期が約三十年間続いた。それでいて実は子供の頃はスキーが大きらいだった。理由は臆病だったからだ。小学生の頃、誰でも平気で滑り降りる坂でも怖くて降りれなかった。それが恥ずかしくて仕様がなかった。

中年になって、仕事でどうしてもスキー場へ行かなければならなくなり、何十年ぶりかでスキーを履いた。ゲレンデで一番の下手くそと嘲われるのを覚悟で必死で滑った。が、誰も私を嘲わなかった。というより誰も私に注目してくれなかったのである。

「上手な滑りは皆が注目する。下手くそは無視される。」-それがわかってスキーが突然好きになった。バカにされるのはいやだけれど放っとかれるんなら良いじゃないか。で、いやがる女房まで巻き込んで、毎冬ゲレンデに通うようになり、大晦日はスキー場の宿で過ごすのが三十年続いたというわけだ。

でも持って生まれた“臆病”という病気は治りようがない。三十年ずっと初心者コースの花ならぬゴミで過ごして来た。これほど上達しないのは我ながら恥ずかしい。

が、今シーズンから私の趣味欄から“スキー”を消すことにした。“下手”にあいそがつきたのではなく、体力がついて行かなくなったからだ。息切れがする、足がガクガクする。医師に「歳のせいでしょうか」と尋ねてみると、「そうですね」というツレない返事が戻ってきた。

さて、冬の間スキーができないとなると、何をすれば日を過ごせるのか。本来何もせずにだらりとしているのは嫌いじゃないから、結局は一日何もせずに過ごすようになった。となると足腰が一層弱ってくる。試しに無為に過ごす一日はどのくらい歩くものなのか計ってみたら、五百歩歩かずと万歩計に出た。テレビと読書の時間はやたら増えたが、眼ばかりが疲れ、すぐに眠くなる。ご隠居が猫を抱いて日なたでうとうとの風景だ。今後は趣味“冬眠”と書くほかない。